

第3章 計画の基本的な考え方

第1節 基本理念

第6次泉南市総合計画において、医療・健康分野の目指すまちの姿を「誰もがいきいきと健康に暮らせるまち」と定めています。

本市は、豊かな自然に育まれた農産物・水産物の食の恵みや、自然環境によって、健康づくりに適した条件を有しています。また、健康づくりに積極的に関わる市民団体等が活動していることから、すべての市民がいきいきと健康に暮らせるまちづくりを、市民・団体、地域、行政が協働して進めることとします。

以上を踏まえ、本計画の基本理念を次のとおり掲げます。

■基本理念

「誰もがいきいきと健康に暮らせるまち」を目指します

第2節 計画の構成

本計画では、健康増進計画、食育推進計画及び自殺対策計画の施策分野を総合的に推進するため、重複する施策分野を整理し、次のとおりの構成とします。

「健康せんなん21(第3次計画)」の構成

健康せんなん21(第3次計画)		
健康増進計画	食育推進計画(栄養・食生活)	自殺対策計画 (休養・こころの健康づくり)
1.生活習慣の改善 ①栄養・食生活 ②身体活動・運動 ③飲酒・喫煙 ④歯・口腔の健康 ⑤休養・睡眠・こころの健康 2.生活習慣病の発症予防・重症化予防 ①がん ②循環器病・糖尿病・COPD 3.生活機能の維持・向上	1. 健康な身体をつくる食生活の推進 2. 食の楽しさ・安全安心の推進	1. 地域におけるネットワークの強化 2. 生きることを促進する相談支援体制づくり
地域環境・人材育成 (3計画それぞれに共通の視点として位置づけます)		
4. 健康づくりを支える地域環境の整備	3. 地域における活動の促進	3. こころの健康を保ち、支え合う環境づくり

第3節 取組の考え方

健康づくり、食育、自殺対策については、市民一人ひとりの生涯にわたる主体的な取組が重要となります。国の健康日本 21(第3次)では、これまで取り組んできたライフステージに応じた健康づくりに加え、新たにライフコースアプローチの観点も取り入れつつ、健康づくりを進めるとされており、本市の計画においてもこうした視点を取り入れ、施策を位置づけるものとします。

また、取組については、行政(市)、市民それぞれの立場でできることを、可能な限り記載するものとします。

(1) ライフコースアプローチ

ライフコースアプローチとは、胎児期から高齢期に至るまで、人の生涯を経時的にとらえた健康づくりのことを指します。

幼少期からの生活習慣や健康状態は、成長してからの健康状態にも大きく影響を与え、高齢期に至るまで健康を保持するには、高齢者の健康を支えるだけでなく、若い世代からの将来を見据えた健康づくりが重要です。また、女性の健康は、妊娠・出産という次世代を育むことにも直結し、ライフステージごとに女性ホルモンの変化による身体への影響を受けるなど、女性特有の健康課題があります。

(2) ライフステージについて

1. 幼少世代(0～15 歳)

生活習慣の基礎が固まる重要な時期。

2. 青年世代(16～39歳)

身体機能が完成期を迎え、最も活動的な時期。社会参加によるライフスタイルを決定する時期。

3. 壮年世代(40～64歳)

身体機能が徐々に低下する時期。社会的には働き盛りの時期。

4. 高齢世代(65歳以上)

身体的には老化が進み、個人差はあるが健康問題が出現する時期。社会的には人生の完成期。

5. 女性

女性ホルモンの変化により健康に影響を受けやすい。ライフステージそれぞれに特有の健康課題がある。